



わた なべ てる かず
渡 辺 晃 一

つ し み ん か い
津市民の会

J R 名松線第四小山踏切の整備進捗状況は

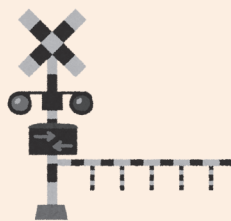
問 県道一志嬉野線（J R 名松線第四小山踏切）の整備について、周辺の住民より早期完了を求める声が上がっている。

地元や J R との調整に時間を要しているとのことであるが、平成28年4月に国土交通省より改良すべき踏切道として指定を受けていることから、早期の整備が望まれるが、整備の進捗状況と工事完了の予定は。

答 当該踏切の改良工事を行うに当たっては、適切な迂回路がなく、全面通行止めにする事ができないことから、仮設踏切の設置が必要であったため、三重県と J R が協議を進めてきた。

平成28年度に協議が整ったことから、すでに一部工事に着手しており、平成30年5月には仮設踏切が完成する予定である。

この仮設踏切が完成次第、県道本線の踏切改良工事を実施し、平成31年度には、事業が完了する予定となっているが、一日も早い完成を三重県に強く要望していく。



●その他の質疑・質問●

○障害者差別解消法について

●取組状況は。他市でも条例制定の動きがあることから、津市障がい者差別解消条例の制定を

○流域公共下水道について

●志登茂川処理区の来年4月供用開始に向けた整備状況は

○農業施策について

●来年度以降の転作事業はどうか。転作事業に対し J A の協力や支援体制は など



▲朝夕混雑する危険踏切（J R 名松線第四小山踏切）



た や しゅう すけ
田 矢 修 介

けんと
県都クラブ

老朽化する津市の社会資本について対策を

問 高度成長期に建設・設置された社会資本は、今後、一斉に更新期を迎え、その維持・更新には多額の費用が見込まれる。

社会資本を適切に管理・更新するために必要な財源を充当するには、いかなる制度設計が必要と考えるか。

また、厳しい財政状況のもと、トンネル、道路のり面・擁壁、橋りょう等の安全性確保や、維持管理の取り組みは。

答 学校、集会施設、運動施設などの公共建築物については、建て替えや改修の必要が生じた時点で、地域にとって必要な施設機能を複合化や集約化していく取り組みを全庁的に進める。

道路、橋りょう、上下水道などのインフラ施設については、ライフラインとして市民生活に密接に関係することから、長寿命化による維持管理費用の平準化を図り、持続可能な社会資本として適切に維持していく。

トンネル、道路のり面・擁壁などの道路構造物等については、交通量の多い89路線を対象に点検を実施し、また、橋りょうについては、木橋、石橋を除く橋長2メートル以上のもの全てについて、法定点検を実施し、いずれも、交付金を活用しながら、順次、修繕を進めている。

●その他の質疑・質問●

○国保は皆保険を守る最後の砦。保険者としての津市の責務は

○住み慣れた自宅や地域で自分らしい暮らしを続けられる医療

・介護の連携強化と人材確保を

○消防署所等の強化について大規模災害を考慮した再編整備を

○津市が誇るべき偉大な漢学者である斎藤拙堂。遺訓や実績の顕彰を通じて文化振興や魅力向上につながる取り組みを など



▲道路の陥没や橋梁の落下防止などインフラの安全対策を